

| | | | |
|--|-------------|--------|-------------|
| イチゴ新品種「滋賀S B 2号」の炭疽病とうどんこ病に対する耐病性評価 | | | |
| 【要約】 滋賀県が育成したイチゴ新品種「滋賀S B 2号」の炭疽病への耐病性は、「章姫」より高く、「かおり野」と同等である。うどんこ病への耐病性は「章姫」と同等である。 | | | |
| 農業技術振興センター・環境研究部・病害虫管理係 | | 【実施期間】 | 令和元年度～令和3年度 |
| 【部会】 農産 | 【分野】 競争力の強化 | 【予算区分】 | 県単 |
| | | 【成果分類】 | 指導 |

【背景・ねらい】

イチゴ栽培において、炭疽病とうどんこ病は重要な病害であり、防除体系の確立のためには、各品種の耐病性を把握する必要がある。そこで、滋賀県が育成したイチゴ新品種「滋賀S B 2号」の炭疽病とうどんこ病に対する耐病性を評価した。

【成果の内容・特徴】

- ① 炭疽病について、葉の病斑数と枯死株数を比較したところ、「滋賀S B 2号」は「章姫」より低い。炭疽病抵抗性品種の「かおり野」と比較したところ、「滋賀S B 2号」との間に差はみられない（図1、2）。
- ② うどんこ病の発生について、2か年の結果を解析したところ、栽培期間を通じた「滋賀S B 2号」の発病葉率は「章姫」より低い。発病果率は、「滋賀S B 2号」と「章姫」との間に差はみられない（図3、4）。果実での発病が商品価値に大きく影響するため、発病果率の調査結果から、「滋賀S B 2号」と「章姫」の耐病性には差がないと判断できる。

【成果の活用面・留意点】

- ① 本研究成果は、炭疽病については2021年度に室内において、炭疽病菌の噴霧接種条件下で検証した結果に基づいている。また、うどんこ病については2019年度と2020年度に施設栽培において、うどんこ病の罹病株を吊り下げ接種条件下で検証した結果に基づいている。
- ② 「滋賀S B 2号」は、炭疽病に対して、抵抗性品種の「かおり野」と同等の耐病性を有するが、薬剤防除は必要である。
- ③ 「滋賀S B 2号」は、うどんこ病に対して「章姫」と同等の耐病性であるため、予防防除を中心とした適切な防除体系をとる必要がある。

[具体的データ]

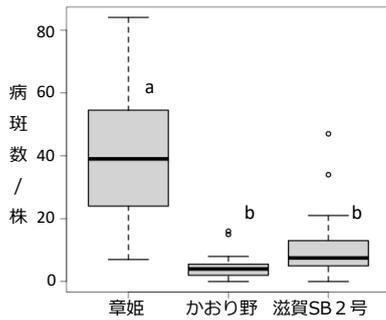


図1. 炭疽病の病斑数の品種間比較 (接種後7日目)

箱中央の太線は中央値を、箱上下は各四分位点を表す。バーは四分位点から1.5倍の範囲内にある最大および最小値を、丸シンボルは外れ値を示す。異なるアルファベット間には、病斑数に有意差があることを示す (Tukey の HSD 検定、 $P < 0.001$)。

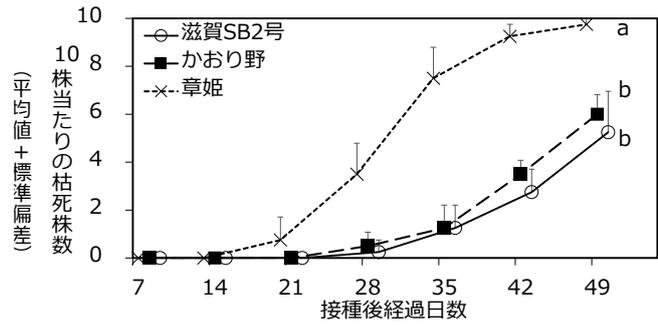


図2. 炭疽病による枯死株数の推移

各品種10株ずつ供試し、噴霧接種日を変えて4回繰り返した。異なるアルファベット間には枯死株数に有意な差があることを示す (一般化線形モデル、事後検定としてWald検定とHolm法による調整、 $P < 0.001$)。

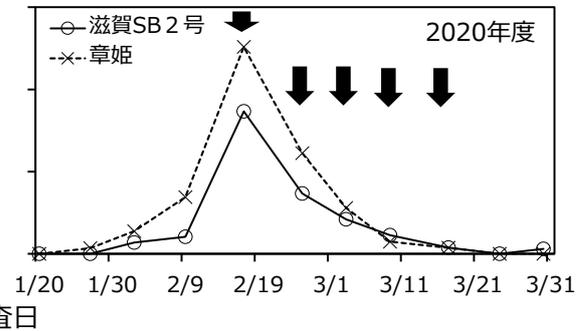
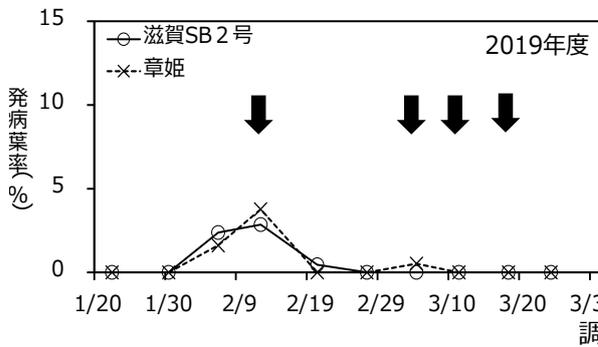


図3. うどんこ病の発病率の推移

(左)2019年度は各品種24株、(右)2020年度は各品種36株の全葉中の発病率を調査した。全体の発病率が5%に達した時点でうどんこ病に登録のある薬剤防除を実施した。下矢印は散布実施日を示す。2ヵ年を通した結果を一般化線形混合モデル(事後検定としてWald検定)で解析した結果、「滋賀SB2号」は「章姫」より有意に低くなった ($P < 0.05$)。

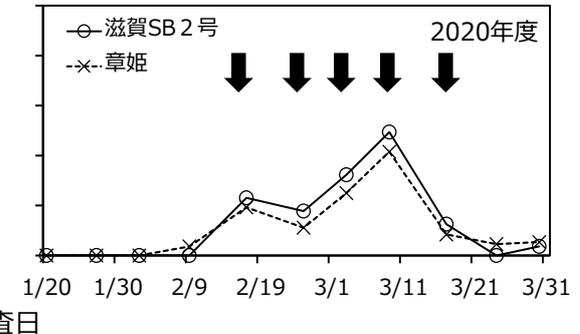
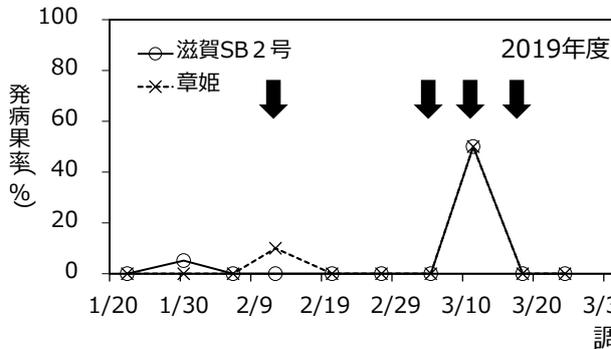


図4. うどんこ病の発病率の推移

(左)2019年度は各品種24株、(右)2020年度は各品種36株の収穫果実中の発病率を調査した。全体の発病率が5%に達した時点でうどんこ病に登録のある薬剤防除を実施した。下矢印は散布実施日を示す。2019年は「滋賀SB1号」も供試しており、3/5、3/18も全体では5%水準を超えていたため防除を実施している。2ヵ年を通した結果を一般化線形混合モデル(事後検定としてWald検定)で解析した結果、両品種間に有意な差はみられなかった ($P > 0.05$)。

[その他]

・研究課題名

大課題名：経済活動としての農業・水産業の競争力を高める研究

中課題名：需要の変化への対応と農地・農業技術等のフル活用

小課題名：イチゴ新品種の苗供給体制の確立

・研究担当者名：柴田隆豊 (R1-R3)、小幡善也 (R1-R3)、金子誠 (R2-R3)

・その他特記事項：イチゴ栽培マニュアルに活用する。